

フィラデルフィア日本語補習授業校継承日本語コース



日本の礼節を学ぶ

フィラデルフィア日本語補習授業校(福澤隆治校長)継承日本語コースは5月30日、日本文化体験授業を開催した。当日は、在NY日本総領事館片平大使の視察もあり、礼儀作法や武道、古武道を通して、日本文化に根づく礼節や集中力、相手を思いやる心について学んだ。



まず、お辞儀の意味や作法について学び、参加者全員で丁寧なお辞儀を実際に体験し、正しい姿勢や相手への敬意を表すことの大切さを学んだ。また、静かに目を閉じて音に耳を澄ませる活動では、海や鳥の声、お鈴の響きに集中することで、自分の心を落ち着かせ、集中する感覚を体験した。

続いて、空手の演武をはじめ、剣道、ムエタイの紹介があり、子どもたちが日頃取り組んでいる武道について披露した。特にブラジリアン柔術は、日本発祥の武道が世界へ広がっている人々に親しまれていることを学んだ。また、30年以上

プリンストン日本語学校バイリンガル・多言語環境支える勉強会



6月21日、プリンストン日本語学校(朽木史昌文部科学省派遣校長)で、第3回「バイリンガル・多言語環境で育つ子どもたちを支えるための勉強会」が開催された。同校日本語継承語部の市原理瑠部長とフレミング奈津子ディレクターが司会進行と講師を務め、スクリーンを用いた説明を交えながら、参加者同士が自身の体験を共有し、活発な意見交換が行われた。

第3回のテーマは、「Family Language Policy (FLP)・家庭内での言語使用に関する方針や実践」。まず、言語政策は「人々の言語観(信念)」「言語に関する制度や方針(管理)」「実際の言語使用(実践)」という3つの側面から成り立っていることについて説明した。さらに、言語政策は「言語の社会的地位 (Status Planning)」「言語そのものの整備 (Corpus Planning)」「言語教育・習得 (Acquisition Planning)」の3つの領域で構成されており、家庭や教育を含む社会全体の中で、言語の維持・継承を支えるための方策について学んだ。

続いて、家族言語政策 (FLP) について、「家庭内での言語を使うかを家族が計画・実践し、親の方針や考え方が子どもの言語習得や言語使用にどのような影響を与えるかを考える取り組み」であること、具体的な例を交えながら、家庭が言語継承に果たす役割の重要性や、地域社会やコミュニティ、世代間交流の中で日本語を積極的に使うことの大切さが強調された。

また、家庭における「先生」は親であることから、アメリカという日本語がマイノリティ言語となる環境の中で、どのように日本語を継承していくかについて具体的なアドバイスもあった。特に、子どもの主体性を尊重しながら、家庭内で一貫したルールを設けることの重要性が示された。One Parent One Language (OPOOL) 各親がそれぞれ異なる言語を「貫く」ことで、家庭内で社会の主流言語ではない言語 (継承言語) のみを使用する方法などの実践例や、幼少期から日本語へのモチベーションを育てることの大切さについても紹介された。

参加者からは、家庭での日本語教育への思いや、バイリンガル教育の悩みが共有された。次回は「バイリンガルの子どもの言語力: 3つの側面」をテーマに開催される予定。

にわたり古武道を学び、達士の称号を持つ福澤校長先生より、古武道についての話と演武を披露があり「礼に始まり、礼に終わる」という武道の精神や、相手への敬意、心技体を整えることの大切さについて学んだ。棒術や抜刀術の迫力ある演武が始まると、会場全体が静まり返り、参加者は真剣な表情で見入っていた。刀の扱い方や所作には相手への敬意を示す意味が込められていることや「歯向かう」という言葉の由来についても教えていただいた。

最後は、篠笛の演奏に合わせて「小さな世界」を手話付きで合唱した。美しい篠笛の音色に耳を傾けながら、友達とのつながりや感謝の気持ちを表現した。今回の授業を通して、児童生徒は日本文化の中にある礼節や集中力、人とのつながりの大切さを体験することができた。

母が昔からよく使う言葉の中に、私がどうしても好きになれないフレーズがある。「私の仕事を増やさないで」

「たいしてそれは、私が何か失敗をした時や、家のルールを間違えた時に言われた言葉だった。忙しいのにこれ以上迷惑をかけるな、もっと注意深くなれ、というその裏の意味は、自分が母になつてからは、よく理解できるようになった。だが私は、娘に同じ言葉を使つたことは一度もない。この一言を聞くたびに心がきゅんと固くなり、悲しくなつたことを覚えていて、それを実は単なる注意ではなく、あなたは私の負担を増やす厄介な存在だ」という意味に等しかった。

日本では昔から「人に迷惑をかけるな」という美徳とされてきた。電車の中では静かにし、公共の場では静かにし、相手の時間や労力は極力奪わない。そうした心遣いは日本社会の素晴らしさの一つだと思う。しかしその価値観が強くなりすぎると、人は他人にも自分にも厳しくなる。困っている人を助け求められず、育児や介護を一人で抱え込んでしまう。さらに「人に迷惑をかけるな」という迷いを返せば、「自分も人から迷惑をかけるべきではない」という価値観でもあ

る。自分にそこまで厳しく律してきた分、他人にも同じ基準を無意識に求めてしまうのだから。困っている人を見て「自分で何とかすべきだ」と考え、時には他人の不幸を公然と批判することさえある。または、下手に介入して、逆に迷惑になる事を避ける人もいるのかもしれない。

実は私は、音楽の世界でも同じく感じる時がある。有名な指揮者のように、共演した時のことだ。私は迷惑をかけたまいと様子を伺いながら歌い、そんな私を気づけて彼も控えめに棒を振り、その空気を讀んだオーケストラもまた固唾をのんで演奏していた。皆が互いに遠慮し合うあまり、音楽が縮こまってしまつて、本来自ら楽しんでいたことがあつた。よく聴き合いつつ自分のやりたい事を表現し、そして相手も受け止め合ひながら一つの世界を創り上げていくものだ。

社会の中で生きるといふことは、このアンサンブルと同じではないかと思う。隠居した仙人でない限り、誰にも迷惑をかけるに生きられるわけはない。気を配りつつ助け合ひ、時には面倒を助け合ひ、生きていくものだ。その温かいやり取りの繰り返しのうちにこそ、人間関係の豊かさがある。

日本にはまた、「困った時はお互い様」という暖かい言葉もある。気をつけていても迷惑をかけてしまった時、かけられた時には、「お互い様」と笑って許し合えるバランスの良い社会が、一番居心地が良いのではないだろうか。「迷惑をかけるな」が日本の美徳であり続ける一方で、「迷惑をかけ合うのもまた人間」と認め合うことも同じくらい大切な価値観として育つてほしい。

母のあの言葉も、きつと彼女なりの不器用な、「迷惑をかけるな」という時代の呪縛だったのかもしれない。私自身はそんな「お互い様」の精神を胸に、今日もまた誰かに少し迷惑をかけている

田村麻子の

カーテンコール

オペラ歌手の舞台裏 ②

私の仕事を増やさないで

田村麻子「NYタイムズ紙に『輝くソプラノ』と絶賛されリンカーンセンターデビュー。欧米劇場で『椿姫』『ルチア』『蝶々夫人』他数々の主役に抜擢。W杯前夜祭3大テナー公演で故バヴァロツティらと共演。MET管、BBC交響楽団など共演。MLB公式戦にて外国人初の米国国歌斉唱の栄誉を担う。ディスコ・アノ国際コンクール(伊)1位。米マネス音楽院首席修了。世界を舞台に活躍する国際的プリマドンナ。



aozora

COMMUNITY

プリスクール

サマーキャンプ

アフタースクール

デイキャンプ

日本語クラスK-8

春キャンプ

冬キャンプ

あおぞらコミュニティ

info@aozoracommunity.org

www.aozoracommunity.org

クリントンヒル校

535 Clinton Ave, Brooklyn

347-721-3521

プロスペクトハイツ校

238 St Marks Ave, Brooklyn

929-624-2287

KIKOKUSHIJO ACADEMY

帰国を待たずに始める KA の英語学習

English for a Lifetime — KA は、子どもたちが仲間と一緒にのびのびと自分らしく過ごせる学習塾であり、コミュニティです。

英語保持向上・中高帰国枠受験・編入試験・国内外大学受験・英検・TOEFL・SAT
国語算数・KA Plus! (オンラインライブ授業のサブスク)

合格実績多数!

帰国子女アカデミー

都立大学/都立大学イースト/目黒/三田/たまプラーザ
明大前/下北沢/吉祥寺/渋谷/文京区/船橋/通信

お気軽にお申し込みください!
無料体験レッスン
資料請求 オンライン説明会
https://www.kikokushijoaacademy.com/